

子育て支援のあり方

第9回まちづくり審議会報告

第9回まちづくり審議会は、継続テーマである「滝上町の子育て支援のあり方」として幼保一元化のあり方についての協議となりました。

協議の前に事務局から、就学前のお子さんを持つ保護者に対して行った「滝上幼稚園・滝美・濁川保育所に関するアンケート速報値」についての説明を行いました。

アンケート結果について

アンケート集計結果で目についた点を紹介すると、「幼稚園・保育所の受入体制や施設整備についての満足度」に対する回答は、それぞれの設問で「ほぼ満足」の回答数が多いが、機械的に回答する傾向もみられました。また、「わからない」との回答が多いのは、幼稚園・保育所からの情報発信が不足していることも原因ではないかと思われる。

幼保一元化の方針は

また、幼稚園と保育所の双方の良い点を取り入れた「認定こども園への移行について」の回答は、約61%の保護者が賛成していますが、約14%はそれぞれの施設があった方がよいという回答でした。

▼幼保一元化は合理化・統合が目的ではないはず。アンケート集計を参考にしながら、自由意見を反映させることが必要ではないか。

▼幼保一元化について、施設を新設するのか、改修するのか、認定こども園の類型など町の方針がある程度決まっているのか？

幼稚園・保育所と施設が

わかれていることが疑問である。同じ条件で等しく子どもを育てるべき。

▼アンケート集計結果から、思った以上に現状に満足していることがわかり逆に驚いた。

子ども

結果をみると保護者からのニーズには応えているのだと思う。子どもを預ける施設は本来的に、子どもは親が愛情を持って育てるべき。

▼幼稚園・保育所の運営内容について聞かれても、子どもたちがどのように活動しているのか分からない。幼稚園・保育所の様子を見学（参観）することは可能なのか。

近

▼幼稚園・保育所・小学校・中学校・高校と「農」「林」「福祉」など滝上町の教育の柱を据えるなどこだわった教育方針が必要である。

藤副町長より、現在「少子化に伴う施設運営、施設の老朽化に伴い幼保一元化を各担当課が連携して検討しているところです。審議委員の皆さんからも参考意見を聞いて、方針を作成する参考にしていきたい。」と話がありました。

また、瀬川会長より、「まちづくり審議会の役割は町長の知恵袋とっています。子どもの教育は教育委員会が担当するなど制度的なこともあります。滝上町の子ども達をどのように育てていくことが望ましいのか意見をどんどん出してもらい、それを事務局でまとめて今後の方針に生かすことが必要です。」とお話がありました。



花ほしい人集まれ!



道の駅広場の国道側の植樹帯には、ポランティアサポートプログラムの一環として、約6千本のマリーゴールドが植栽されています。マリーゴールドは一年草ですが、室内などで栽培すれば、12月頃まで花を楽しみむことができます。苗をほしい方は10月31日までに、道の駅広場国道側のマリーゴールド植栽帯から自由にお取りください。なお、苗をほりあげる際は、植栽帯の滝上市街地側からお取りください。秋以降も花を楽しみましょう!

◇ 問い合わせ先

役場商工観光課

☎ 29-2111 (内線65)



見事な宙返りです

第28回道北地区トランポリン大会（道北トランポリン協会主催）がスポーツセンターで開催されました。大会には、士別市や当麻町、美深町など6市町から39チーム105人が参加。3人1組で合計点数を競うトランポリン競技と、4人1組で1本ずつ演技を増やしながら交互に飛ぶシャトル競技を行いました。本町からは、トランポリン競技に7チーム21人が参加しましたが惜しくも入賞を逃しました。またシャトル競技には「童話村たきのうえチーム」が参加し、見事2位に入賞しました。

9/21

より高く！より美しく！



親子で楽しみました

滝上町スポーツ公園多目的グラウンド及び町内一円で、南部忠平杯争奪『第34回町民マラソン大会』が開催されました。当日は、前日からの雨が上がり肌寒い朝でしたが、町内から老若男女の2000人をこえる選手が参加し、スポーツの秋を堪能しました。大会では、各学年・一般・親子ペアなどの自分にあった種目にエントリー、完走を目指し秋空の中を走り抜けました。

9/28

スポーツの秋



除幕式の様子

滝上町100年祭を記念して大津童州先生（東京在住）から寄贈された全紙屏風六曲一双の除幕式が、文化センターで開催されました。大津先生は、平成17年5月に滝上町で開催された桑原翠邦生誕百年記念展の際に、町教育委員会の招聘により来町されました。先生は、この時の揮毫会で大小50点におよぶ書作品を寄贈されました。会終了後、ぜひとも大作の揮毫をとの声があがり、先生もこれを快く引き受けられ、この度、町開拓100年を記念して全紙屏風六曲一双の作品が寄贈されたものです。

10/4

六曲一双屏風を披露！

屏風は、翌日の100年祭記念式典の舞台に飾られ、100文字で書き上げられた重厚で躍動感あふれるその筆致は、記念式典にふさわしい舞台背景となりました。また除幕式終了後、式に参列した文化連盟日本習字鳳支部会員をはじめ町内の書道愛好家が自分の書作品を持ち寄り、大津先生に直接臨書指導を受けられ、古典（原典）を学ぶことの大切さを再認識していました。



直接臨書指導を受けました